静岡経済研究所
NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長　一 杉 逸 朗
静岡市葵区追手町1-13
TEL　054-250-8750
FAX　054-250-8770

2021 年 1 月 25 日

2021 年 1～3 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

緊急事態宣言の再発出で 経済活動に下振れ懸念

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、12月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

○県内産業の現況（2020年10～12月期）は、『好調』および『順調』の業種はなく、『普通』が「食品・飲料」「民生用電器部品」「情報サービス」の３業種となった。

○『低調』は「製紙」「自動車部品」「二輪車部品」「建設」「自動車販売」「物流」「人材派遣」の７業種。『不調』は「工作機械」「住宅」「大型小売店」「観光・レジャー」「外食」の５業種となった。

今後の見通し

○2021年１～３月期の見通しについては、引き続き『好調』『順調』の業種はなく、「自動車部品」「二輪車部品」「自動車販売」が一段階上昇し、『普通』が６業種となる。

○また、「工作機械」「住宅」「大型小売店」が『不調』から『低調』に一段階上昇して『低調』が７業種となり、『不調』は「観光・レジャー」「外食」の２業種のみとなる見通し。

○輸送機器関連など製造業を中心に県内経済は持ち直しが続いてきたが、年末から年明けにかけて全国的に新型コロナウイルスの第３波が急襲。１月７日には東京都など１都３県に、13日にはさらに大阪や愛知など７府県に対して緊急事態宣言が再発出されたことで、今後、経済活動の下振れが懸念される。

業種	業界天気 現況（10-12月）		見通し（1-3月）
製紙	☂	→	☂
食品・飲料	☁	→	☁
工作機械	☂	→	☂
民生用電器部品	☁	→	☁
自動車部品	☂	→	☁
二輪車部品	☂	→	☁
建設	☂	→	☂
住宅	☂	→	☂
大型小売店	☂	→	☂
自動車販売	☂	→	☁
物流	☂	→	☂
情報サービス	☁	→	☁
人材派遣	☂	→	☂
観光・レジャー	☂	→	☂
外食	☂	→	☂

※本件のお問合せ先　担当（大石 彰男）

今月の定例調査　2021年１～３月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

緊急事態宣言の再発出で、経済活動の下振れ懸念

業界景気の現況（2020年10～12月期）

県内産業の現況（2020年10～12月期）は、『好調』および『順調』の業種はなく、『普通』が「食品・飲料」「民生用電器部品」「情報サービス」の３業種、『低調』が「製紙」「自動車部品」「二輪車部品」「建設」「自動車販売」「物流」「人材派遣」の７業種で、『不調』は「工作機械」「住宅」「大型小売店」「観光・レジャー」「外食」の５業種となった。

業界景気の見通し（2021年１～３月期）

１～３月期の見通しについては、引き続き『好調』『順調』の業種はなく、「自動車部品」「二輪車部品」「自動車販売」が一段階上昇し、『普通』が６業種となる。また、「工作機械」「住宅」「大型小売店」が『不調』から『低調』に一段階上昇して『低調』が７業種となり、『不調』は「観光・レジャー」「外食」の２業種のみとなる見通し。輸送機器関連など製造業を中心に県内経済は持ち直しが続いてきたが、年末から年明けにかけて全国的に新型コロナウイルスの第３波が急襲。１月７日には東京都など１都３県に、13日にはさらに大阪や愛知など７府県に対して緊急事態宣言が再び発出されたことで、今後、経済活動の下振れが懸念される。

各種Go To キャンペーンで一息ついていた「**観光・レジャー**」「**外食**」の２業種では、新型コロナウイルスの第３波到来によりキャンペーンが一時停止となって再び大打撃を受け、引き続き『不調』のまま推移する見通し。両業種とも、例年であれば春先にかけて行楽需要などが見込めるが、今春は首都圏からの来静が期待できない状況。

一方、国内の新型車販売が堅調な「**自動車部品**」「**自動車販売**」、コロナ禍でツーリング人気や通勤需要が高まっている「**二輪車部品**」の３業種が『低調』から『普通』に上昇。巣ごもり需要が堅調な「**食品・飲料**」、暖房機器の需要が増加する「**民生用電器部品**」、コロナ禍でデジタル化需要が底堅い「**情報サービス**」の３業種も『普通』のまま推移する見通し。

また、足元で自動車向けの引合いが出てきた「**工作機械**」、客足が徐々に戻り受注が回復傾向にある「**住宅**」、総合スーパーでの巣ごもり消費が堅調な「**大型小売店**」の３業種が『不調』から『低調』に上昇。業務用需要の低迷が続く「**製紙**」、民間の設備投資意欲が低調な「**建設**」、紙・パルプなど倉庫の荷動きが低調な「**物流**」、専門性の高いＩＴ系人材は需要が増加しているものの製造業向けのニーズが弱い「**人材派遣**」の４業種は引き続き『低調』のまま推移する見込み。

2021年１～３月期　静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

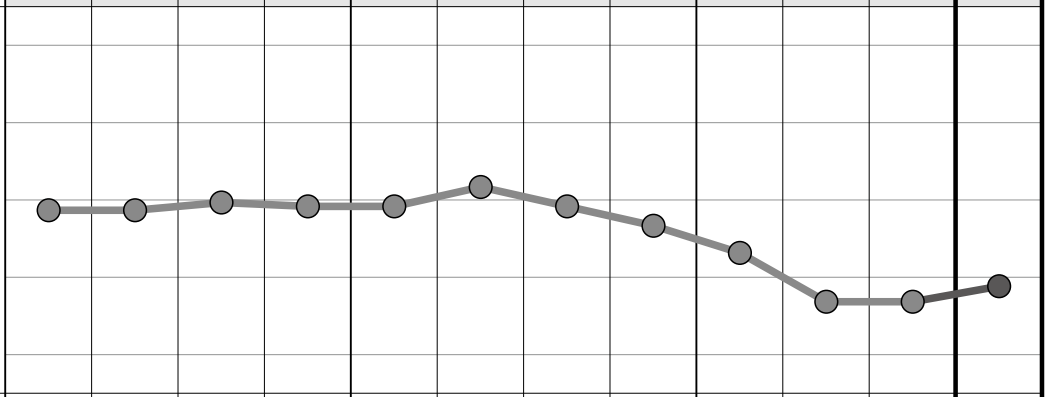
業　　種	業界天気 現況 (10-12月)		見通し (1-3月)	売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
製　　紙		→		↘	業務用需要の低迷で、前年水準を下回る
食品・飲料		→		↘	巣ごもり需要で堅調に推移するが、好調だった前年には及ばず
工作機械		→		↗	中国向けが受注をけん引、水準は低いが緩やかな回復基調へ
民生用電器部品		→		↗	暖房需要の増加で、家庭用エアコンは前年をやや上回る
自動車部品		→		↘	軽関連を中心に堅調に推移、トヨタ向けは前年を上回る
二輪車部品		→		↗	内外需とも増加し、前年を上回る水準で推移する見通し
建　　設		→		↘	公共は防災・減災の土木工事発注で前年並み、民間は低調
住　　宅		→		→	受注は回復傾向、着工戸数も前年並みを確保
大型小売店		→		→	総合スーパーは巣ごもり消費で堅調、百貨店は低迷
自動車販売		→		→	トヨタ系が伸長するも、全体では前年並みの水準となる見通し
物　　流		→		↘	トラック輸送量は前年並み､倉庫の荷動きは低調に推移
情報サービス		→		→	デジタル化需要は底堅いものの､新規受注に陰り
人材派遣		→		↘	専門スキルの高いＩＴ系は需要が増加するも、製造向けは低迷
観光・レジャー		→		↘	緊急事態宣言の再発出で、年明けも前年割れは避けられず
外　　食		→		↘	新年会などのイベントの中止で、厳しい経営環境が続く

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	↗	非常に増加（+10%以上）
	順調		不調	↗	増加（+3～+9%）
	普通			→	横ばい（+2～▲2%）
				↘	減少（▲3～▲9%）
				↘	非常に減少（▲10%以上）

静岡県内主要産業四半期見通し調査『現況』推移

年　次	2018年				2019年				2020年			
四 半 期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ（今回調査）
対象月（○は調査月）	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫
全業種の平均階級値	2.85	2.85	2.95	2.90	2.90	3.15	2.90	2.65	2.30	1.67	1.67	**1.87**
（業種数） 好調	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	**0**
順調	2	2	3	4	4	3	5	3	2	1	0	**0**
普通	10	10	10	10	10	11	8	8	5	3	2	**3**
低調	7	7	6	6	6	4	7	8	10	1	2	**7**
不調	0	0	0	0	0	0	0	1	3	10	10	**5**



注１）「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年３、６、９、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（12月調査であれば10 ～ 12月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（12月調査であれば１～３月期）の見通しを示す。

注２）調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
調査時点…2020年12月上旬
回答企業…県内主要15業種（245社）

注３）平均階級値は、好調：５、順調：４、普通：３、低調：２、不調：１とする、15業種の平均値。
（2020年１～３月期までは20業種の平均値）

各業種および表の見方

製　紙　業務用需要の低迷で、前年水準を下回る

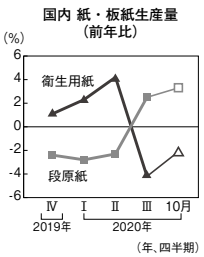
【現況】↓【見通し】

現　況

【10-12月期】トイレ紙は、家庭用が年末にかけて例年並みに回復し[illegible]オル用紙は引き続き好調[illegible]経済活動の再開による[illegible]傾向にあるものの、白板紙は前年割れが続いた。

見　通　し

【1-3月期】トイレ紙は、感染の再拡大による外出自粛や在宅勤務で、家庭用需要は回復するものの、業務用は低調に推移する[illegible]くとみられる。段ボール[illegible]日用品向けは堅調に推移し、業務用も持ち直しが見込まれるが、感染再拡大による下振れ懸念が残る。



【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	↗

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
89～80%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.1～1.0ヵ月

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
100～90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ月
89～80%	需 要 超 過	過　少	上　昇	上　昇	
79～70%	均　衡	適　正	横 ば い	横 ば い	
69～60%	供 給 超 過	過　多	下　降	下　降	
59％以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製　紙　業務用需要の低迷で、前年水準を下回る

【現況】

↓

【見通し】

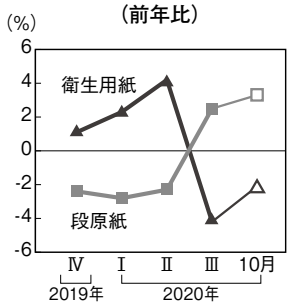
【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	↗

【10-12月期】 トイレ紙は、家庭用が年末にかけて例年並みに回復したが、業務用は低迷が続いた。タオル用紙は引き続き好調を維持した。段ボール原紙は、経済活動の再開による反動増と年末需要で緩やかな回復傾向にあるものの、白板紙は前年割れが続いた。

【1-3月期】 トイレ紙は、感染の再拡大による外出自粛や在宅勤務で、家庭用需要は回復するものの、業務用は低調に推移する見込み。タオル用紙は好調が続くとみられる。段ボール原紙は、巣ごもり消費で食品や日用品向けは堅調に推移し、業務用も持ち直しが見込まれるが、感染再拡大による下振れ懸念が残る。

国内 紙・板紙生産量
（前年比）

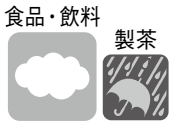


（年、四半期）
資料：経済産業省

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
89～80%	供給超過	過多	横ばい	横ばい	0.1～1.0ヵ月

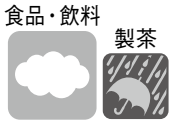
食品・飲料／製茶　巣ごもり需要で堅調に推移するが、好調だった前年には及ばず

【現況】



↓

【見通し】



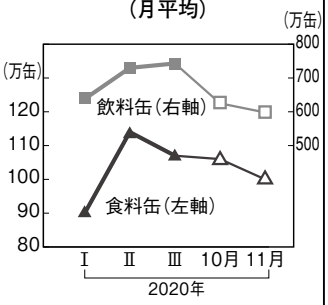
【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	↘

【10-12月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は前年を下回った模様。家庭内の在庫が増え、巣ごもり需要が一巡したとみられる。飲料缶類の生産量は、好調だった前年実績を下回った。**製茶：**製茶問屋の売上高は、歳暮などの贈答需要が低調で、前年を下回った。

【1-3月期】食品・飲料：県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を下回る見通し。巣ごもり需要に支えられ、堅調に推移すると予想されるが、受注が急増した前年実績には届かない模様。飲料缶類の生産量は、小型缶需要の減少で前年を▲５％下回る見通し。**製茶：**製茶問屋の売上高は、リーフ茶需要が減少し、前年を下回る模様。

県内 食料缶・飲料缶生産量
（月平均）



（年、四半期）
資料：（一社）静岡缶詰協会

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
100～90%	均衡	過多	横ばい	横ばい	0.1～1.0ヵ月

工作機械　中国向けが受注をけん引、水準は低いが緩やかな回復基調へ

【現況】

↓

【見通し】

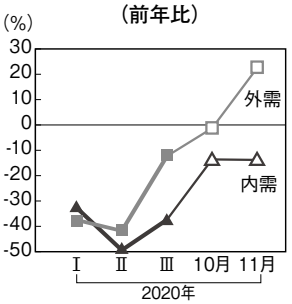
【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↗	↗

【10-12月期】全国および県内の受注額は、米中貿易摩擦の影響で受注が弱かった前年並みの水準まで回復した模様。中国では、デジタルインフラ投資の拡大などにより受注が前年を大きく上回り、米国も回復傾向にあるなど、低迷が続く内需をカバーした。

【1-3月期】全国および県内の受注額は、大きく落ち込んだ前年をやや上回る見通し。内需は、足元でメインの自動車向けの引合いが出てきており、外需も引き続き中国向けがけん引するとみられる。ただし、感染再拡大を受け、企業の設備投資意欲が再び低下することが懸念され、緩やかな回復基調にとどまることが予想される。

国内 工作機械受注額
（前年比）



（年、四半期）
資料：（一社）日本工作機械工業会

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
79～70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.3～10.0ヵ月

民生用電器部品　暖房需要の増加で、家庭用エアコンは前年をやや上回る

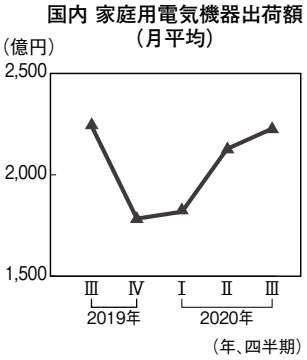
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税後の反動減で低調だった前年を＋10％前後上回った模様。また、冷蔵庫は、内食需要の拡大で大容量モデルがけん引し、前年をやや上回った。洗濯機も、洗浄機能を高めた製品が人気を集め、前年実績を確保した。

【1－3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、北日本を中心に暖房器具としての需要増加が見込まれ、前年をやや上回る見通し。冷蔵庫は、家庭で食事を摂る世帯の増加で大容量モデルへの買替需要が見込まれ、前年並みを維持する見込み。洗濯機も、高性能機種への買替需要に支えられ、前年水準を確保するとみられる。



資料：経済産業省

【1－3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↗	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0～3.0ヵ月

自動車部品　軽関連を中心に堅調に推移、トヨタ向けは前年を上回る

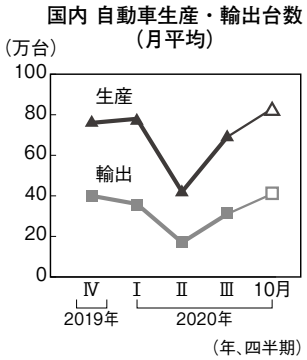
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】全国の自動車生産台数は、ほぼ前年並みで推移した模様。ただし、前年が消費税増税の影響でやや低水準だったため、生産水準自体はそれほど高くない。県内部品メーカーの生産量は、軽関連およびトヨタ関連では、前年実績を確保した模様。

【1－3月期】全国の自動車生産台数は、前年実績をわずかに下回って推移する見通し。内需は、通勤・通学用の需要が増す３月の最繁期に向けて軽関連を中心に堅調に推移する見込み。一方、輸出は北米で持ち直し続くが、欧州は低迷する見込み。県内部品メーカーの生産量は、軽関連は前年並み、トヨタ向けは前年を上回る見込み。



資料：(一社)日本自動車工業会

【1－3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	↗

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.1～2.0ヵ月

二輪車部品　内外需とも増加し、前年を上回る水準で推移する見通し

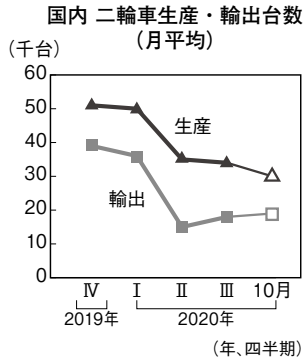
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】全国の完成車生産台数は、前年実績並みで推移した模様。密を避けられるツーリング人気の高まりなどから、完成車メーカーの生産が回復した。各部品メーカーの稼働率も例年並みの水準に回復し、一部では大幅に増加したところもあった模様。

【1－3月期】全国の完成車生産台数は、前年比＋１割弱程度上回って推移する見通し。海外への輸出が好調な模様で、欧州向けは完成車が、北米や中国向けはＫＤ部品が伸長。国内でも人気車種は供給が追い付いていない状況で、県内二輪車部品メーカーの受注量も、前年を＋１割弱程度上回る水準で推移する見込み。



資料：(一社)日本自動車工業会

【1－3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↗	↗

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100～90%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.2～1.5ヵ月

建　　設　公共は防災・減災の土木工事発注で前年並み、民間は低調

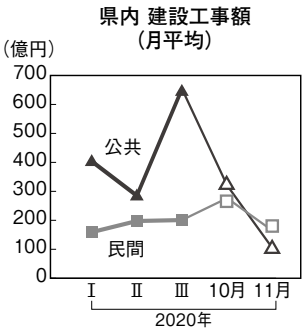
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】県内の公共工事契約高は、前年を下回った模様。工事の平準化とコロナ禍における経済対策を目的に上期の発注を増やした反動で、国関係、県関係、市町関係いずれも前年割れ。民間の工事費予定額も、設備投資意欲が回復せず、前年を大きく下回った。

【1-3月期】県内の公共工事契約高は、前年同水準で推移する見通し。県や政令市が、国の第３次補正予算を見込んだ防災・減災のための土木工事を発注すると見込まれる。一方、民間の工事費予定額は、前年を下回る見通し。アフターコロナを見据えた設備投資に動く企業も一部にみられるが、全体的には低調に推移する見込み。



(年、四半期)
資料：国土交通省、建通新聞社

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	→

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
89～80%	均衡	供給超過	横ばい	横ばい	2.0～10.8ヵ月

住　　宅　受注は回復傾向、着工戸数も前年並みを確保

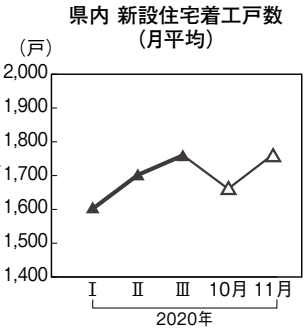
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】県内の持家新設着工戸数は、前年をやや下回った模様。コロナ禍による所得・雇用不安の顕在化で、消費増税後の前年同期の水準にも届かなかった。来客数は回復傾向がみられるが、緊急事態宣言下にあった４～５月頃の営業不振が響いた。

【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、消費増税後で低調だった前年実績を確保できる見通し。昨夏以降、客足は徐々に戻り、大手ハウスメーカーの受注件数も回復傾向にあることから、契約が順調に進めば、着工戸数の増加が期待される。貸家は、不動産投資への追い風要因なく、引き続き低調に推移する見通し。



(年、四半期)
資料：国土交通省

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
→	↗

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
89～80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	3.1～6.7ヵ月

大型小売店　総合スーパーは巣ごもり消費で堅調、百貨店は低迷

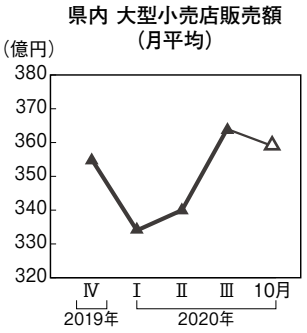
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】県内大型小売店の販売額は前年をやや上回った。百貨店は、消費増税後の反動減で大きく落ち込んだ前年水準をわずかに上回った模様。総合スーパーは、新型コロナ第３波の到来で、家庭で食事を摂る消費者が増加し、売上の多くを占める食料品が前年を上回った。

【1-3月期】県内大型小売店の販売額は前年並みで推移する見通し。百貨店は、外出機会の減少が見込まれる中、主力の衣料品を中心に販売額は前年をやや下回る見通し。総合スーパーは、内食需要の高まりで飲食料品が堅調に推移するほか、台所用品や衛生用品なども伸長が見込まれ、全体の販売額は前年をやや上回る見通し。



(年、四半期)
資料：経済産業省

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
→	→

操　業　度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受　注　残
－	供給超過	－	横ばい	横ばい	－

自動車販売　トヨタ系が伸長するも、全体では前年並みの水準となる見通し

【現況】

↓

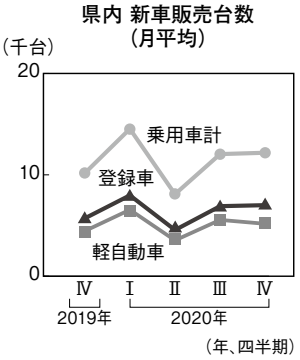
【見通し】

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
→	↗

【10-12月期】県内の新車販売台数は、前年10月の消費増税に伴う販売台数の反動で、前年比＋19.9％と大幅な増加となった。来店客数は新型コロナウイルス感染拡大以前の水準に届かないものの、事前に車種を決めて来店するケースが多く、成約率が高かった。

【1-3月期】県内の新車販売台数は、前年並みの水準で推移する見通し。人気車種を抱えるトヨタ系が伸長し、他のメーカーは追随できていない状況。安全装備搭載車やハイブリッド車が売上をけん引しているが、新型コロナウイルスの感染状況次第では、年度末セールの規模縮小など下振れ懸念も残る。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.4～2.6ヵ月

物流　トラック輸送量は前年並み、倉庫の荷動きは低調に推移

【現況】

↓

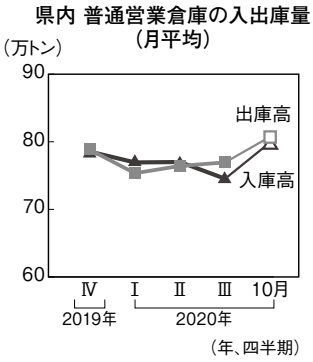
【見通し】

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	→

【10-12月期】県内のトラック輸送量は、紙・パルプなどの荷動きが伸び悩み、前年をやや下回った模様。普通倉庫の入出庫高は、食料品関連の荷動きは好調だったものの、鉄鋼や紙・パルプが低調で、全体では前年並みの水準となったとみられる。

【1-3月期】トラック輸送量は、前年並みの水準を確保する見通し。食品や飲料などの生活必需品が堅調に推移する中、主力の輸送用機器や電気機械なども前年並みを確保すると予想。一方、倉庫の入出庫高は、紙・パルプなどの荷動きが低調に推移するとみられ、前年水準をやや下回って推移すると予想される。



資料：静岡県倉庫協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79～70%	供給超過	－	横ばい	下降	－

情報サービス　デジタル化需要は底堅いものの、新規受注に陰り

【現況】

↓

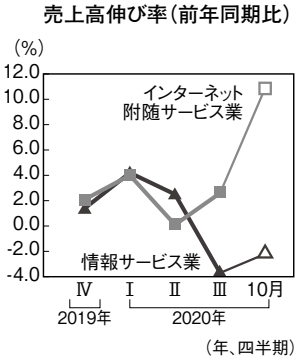
【見通し】

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
→	→

【10-12月期】全国および県内の売上高は、前年比横ばいで推移した模様。営業活動の制限やユーザーの業績悪化を受け、主力のソフトウエア開発に例年の勢いはみられないものの、ＥＣ（電子商取引）の拡大などによりサービス業務等が伸長、前年並みの水準は確保した様子。

【1-3月期】全国および県内の売上高は、前年並みの水準で推移する見通し。コロナ禍でもデジタル化需要は底堅く、一定の受注は確保している事業者が多いとみられる。ただし、足元では、感染が再拡大していることから、首都圏を中心に再び営業活動が制限され、新規受注には陰りもみられそう。



資料：経済産業省
「特定サービス産業動態統計調査」

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100～90%	均衡	適正	横ばい	横ばい	－

人材派遣　専門スキルの高いＩＴ系は需要が増加するも、製造向けは低迷

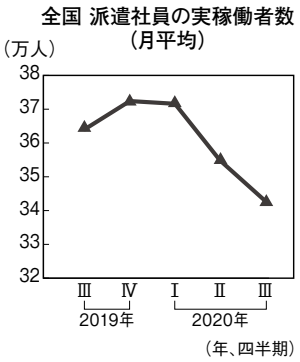
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年比▲５％程度下回って推移した模様。製造業向けでは、前年比▲10％程度下回って推移したとみられる。一方、ＩＴ系の派遣需要が伸びたほか、介護・医療についても、引き続き人手不足により派遣需要が増加した。

【1-3月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を▲５％程度下回って推移する見通し。専門性の高いＩＴ系や事務などのニーズは一定数あるが、引き続き製造業の派遣需要は低迷するとみられる。供給サイドでは、派遣先のニーズを満たす専門性の高い人材をどれだけ確保できるかがカギとなる。



資料：(一社)日本人材派遣協会

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79～70%	供給超過	－	横ばい	横ばい	－

観光・レジャー　緊急事態宣言の再発出で、年明けも前年割れは避けられず

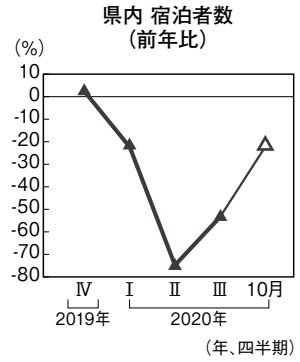
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を下回った模様。前半は「Go To トラベル」効果で安定した推移を見せていたが、12月に入って年末の一時停止が決まり一気に失速した。大量のキャンセルは穴埋めできず、収益環境も急激に悪化した。

【1-3月期】県内主要旅館の売上高は、前年を下回る見通し。緊急事態宣言の再発出により、首都圏民を中心に外出が自粛されるため、前年水準には届かない模様。人気の高い花の行楽需要や卒業旅行需要が顕在化しない可能性もあり、特に１～２月は売上や利益がさらに下振れするリスクが大きい。



資料：観光庁

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	↘

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
－	供給超過	－	横ばい	横ばい	－

外食　新年会などのイベントの中止で、厳しい経営環境が続く

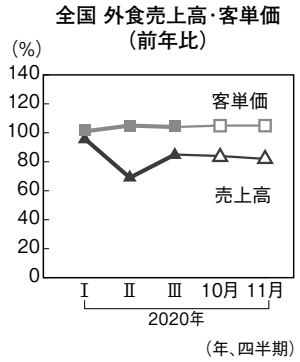
【現況】

↓

【見通し】

【10-12月期】主要外食店の売上高は、前年を▲10％程度下回った。「Go To Eatキャンペーン」などの需要喚起策により、売上高や来客数に改善がみられたが、新型コロナウイルス感染再拡大で失速。12月は忘年会の中止が相次ぎ、法人需要が大きく落ち込んだ。

【1-3月期】主要外食店の売上高は、前年を▲10％程度下回る見通し。新型コロナの感染急拡大に伴い外出自粛が求められる中、新年会や年度末の送別会の中止が予想され、居酒屋などを中心に厳しい経営環境が続くと予想される。一方、ファストフード店を中心に、テイクアウトや宅配サービスなどは堅調に推移する見込み。



資料：(一社)日本フードサービス協会

【1-3月期売上高】

前年同期比	10-12月期比
↘	↘

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
－	供給超過	－	横ばい	横ばい	－

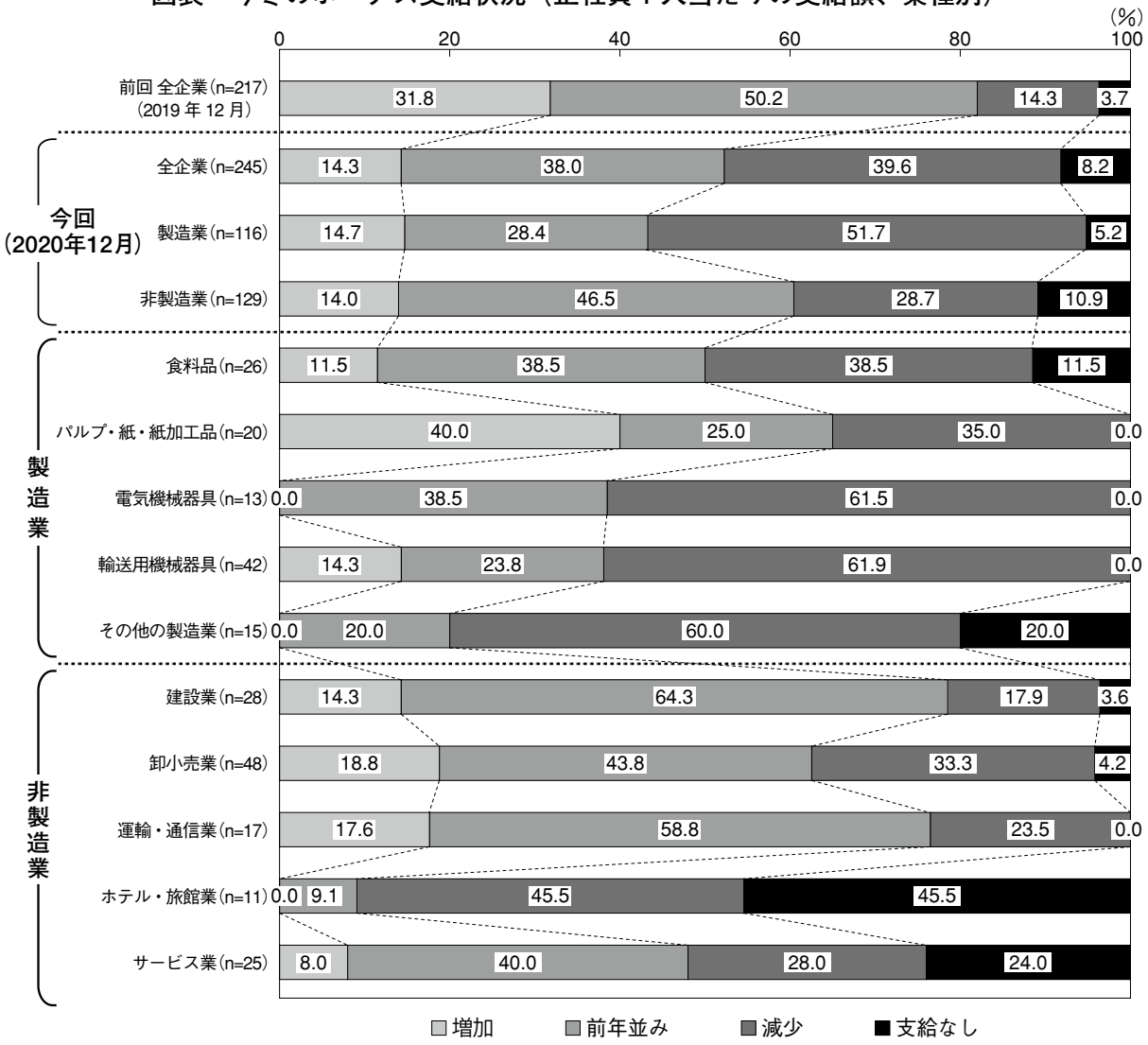
ウォッチング

夏に続き、ボーナス支給額「減少」企業が大幅に増加

県内企業に、今冬のボーナス支給について質問したところ、前年より「減少」させると回答した企業が39.6％と４割近くに達し、前年調査（2019年12月、14.3％）比＋25.3ポイントと大幅に増えた（**図表**）。また、「支給なし」も8.2％あった一方、ボーナス支給額を「増加」させるとの回答は14.3％と、前年調査比△17.5ポイントも減少した。

業種別にみると、春先にトイレットペーパーなどが品薄となり増産が続いた“パルプ・紙・紙加工品”では「増加」と回答した企業が40.0％と４割に達したが、一方で「減少」との回答も35.0％あり、同じ業種内でも取り扱っている品目により明暗が分かれた。製造業・非製造業ともにコロナの影響を色濃く受けており、“輸送用機器”や“電気機器”で６割以上が「減少」と回答。また、“ホテル・旅館業”では、「減少」および「支給なし」があわせて９割超に達するなど、きわめて厳しい状況となった。

図表　今冬のボーナス支給状況（正社員１人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2020年12月、調査対象企業590社、回答社数245社、有効回答率41.5％